

■「コミュニティ・スクール」とは？

皆さんは「コミュニティ・スクール」という言葉をお聞きになったことがありますでしょうか。「学校運営協議会制度」とも表されたり、「コミスク」なんて略されたりすることもあります。これからの学校において大切な考え方ですので、今回は「コミュニティ・スクール」について、少し詳しく記してみます。

まずは、文部科学省の記述について紹介します。

「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。コミュニティ・スクールでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。 【文部科学省】

また、本市のめざす「コミュニティ・スクール」として次のような記述があります。

「地域とともにある学校」づくりの組織的な取組を推進するため、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）と地域学校協働活動を一体的に推進する。 【第4次とよおか教育プラン】

つまり、「コミュニティ・スクール」は、地域と学校が一緒になって子どもたちの教育を担っていくという考え方で、地域住民と教職員を委員とした「学校運営協議会」を設置し、地域にお住まいの皆様にも学校運営に参画してもらうこととなります。

では、なぜ「コミュニティ・スクール」が求められるようになったのでしょうか。それは、子どもに関する課題が、学校の力だけではなかなか解決できにくくなっているからです。

本校にすべてが当てはまるわけではありませんが、一般的に次のような課題が挙げられます。

- ・登下校時の子どもたちの安全確保（交通事故、不審者 等）
- ・一人一人に応じたきめ細やかな学習支援（登校しづらい子どもへの対応、教室から出てしまう子どもへの対応 等）
- ・下校後の子どもたちの生活（公園での遊び方、自転車の乗り方、ピクニック等）

これらは従来、学校でやるべきこととされてきた印象が強くありますが、本来、教育は「教師が担う学校教育」「地域が担う社会教育」「保護者が担う家庭教育」の3つのバランスが重要です。そのバランスが大きく学校に偏っているとされています。

本校にも同様の課題はありますが、PTAの方、民生委員の方、安全ボランティアの方等をはじめとする保護者、地域の方々にもぜひご協力いただいています。こうした子どもに関する課題に対応していくためには、地域の声を学校教育に反映し、地域に合った学校になっていくように、共に考えていこうという動きが重要になってきます。これが「コミュニティ・スクール」です。

150周年記念の航空写真撮影後に、今年度の第1回学校運営協議会を開催し、今後も「地域とともにある学校」づくりに取り組んでいきます。

（校長 山本 考一）



校長ブログ：府中っ子の学校での様子をお伝えします。（パスワード：